

## なぜ世界戦争になったか

- 1) ドイツ・イタリアが、危機を侵略戦争で解決しようとして、【1:                   】による安全保障体制を崩壊させた。
- 2) ドイツが1939年に始めた戦争と、日本が1931年に始めた戦争は、1941年に独ソ戦・【2:                   】の勃発で一体化し、世界戦争になった。

### 2013 川崎医療福祉大学(抜粋・改変)を解いてみよう

(前半割愛) ……しかし、1929年の㉞世界恐慌を境として、国際政治は激動の時期を迎え、国際連盟の実効性も問われることになる。1931年、日本が満州の制圧に乗り出し、翌32年には、満州国の建国を宣言すると、連盟は調査団を派遣し日本の侵略行為を非難したが、それを止めることはできなかった。一方、ヨーロッパでも、1933年に㉟ドイツのヒトラー政権が連盟を脱退するにいたった。そして、1935年にイタリアによって開始された( ㊹ )侵略に際し、㊱国際連盟はまたもその弱体性を暴露することになった。

問47 下線部㉞について、世界恐慌の影響を受けて農産物価格は大きく下落し、その輸出で繁栄していたプランテーションは大きな打撃を受けた。ゴムのプランテーションで有名なイギリスの植民地はどこか。

- a フィリピン      b マレーシア      c インドネシア      d ビルマ

問48 下線部㉟について、ヴェルサイユ体制の崩壊を招いた一連の動きについて述べた次の文章のうち間違っているものを次のa～dから1つ選びなさい。

- a 軍備平等権の主張が認められないことを理由に国際連盟を脱退した。  
b 住民投票の結果、炭田地帯であるルール地方を併合した。  
c 再軍備宣言をして、徴兵制度を復活した。      d 非武装地帯であるラインラントに進駐した。

問49 空欄㊹に入る最も適切な国名を次のa～dから1つ選びなさい。

- a アルジェリア      b アルバニア      c エチオピア      d ソマリア

問50 下線部㊱について、第二次世界大戦後発足した国際連合では、国際連盟の失敗に鑑みて、様々な方策がとられた。その新方策の説明として間違っているものを次のa～dから1つ選びなさい。

- a 総会での全会一致の原則を取り入れた。      b 五大国による安全保障理事会を設けた。  
c 平和維持のため、国際連合軍(国際警察軍)の設置が決められた。  
d 平和が脅かされた時の、制裁規定を明確に定めた。

正解 問47 b 問48 b 問49 b 問50 a

## なぜ連合国は勝利できたか

- 1) 連合国側は反ファシズムの1点で団結することができた。それは1941年の【3:                   】に結実し、社会体制の全く異なる【4:                   】も含めて結束できた。これが、43年2月以降の大反攻につながっていく。
- 2) ファシズム側は世界に訴える普遍的理念を持たなかった上に、暴力的な占領地支配で抵抗闘争を呼び起こした。
- 3) 全世界で数千万人の犠牲を出した。
- 4) 戦後の世界秩序は連合国が示した普遍的理念に基づいている。

### 2014 青山学院大学(抜粋・改変)を解いてみよう

戦後の世界秩序の構想は、すでに、第二次世界大戦中から開始されていた。戦争開始後2年目の1941年には既に、アメリカ大統領ローズヴェルトとイギリス首相チャーチルの会談により、戦後秩序の大枠を構想した【A】が発表された。その後1943年には、【B】も参加して、アジアの対日処理を決めた【C】、さらに戦争終結直前の1945年には、ソ連領土内で3大国の指導者らにより話し合われた【D】によって、連合国による戦後の国際秩序システムが、形成されていったのである。(以下割愛) 適語を選択肢から選べ。

問1 A ①国連憲章      ②大西洋憲章      ③テヘラン会談      ④ポツダム協定      ⑤マーストリヒト条約

問2 B ①袁世凱      ②蔣介石      ③スターリン      ④ブリアン      ⑤モロトフ

問3 C ①カイロ宣言      ②ダンバートン・オークス会談      ③トリアノン条約      ④パグウォッシュ会議      ⑤プラザ合意

問4 D ①テヘラン会談      ②パリ会談      ③ポツダム会談      ④モスクワ会談      ⑤ヤルタ会談

正解 問1 ② 問2 ② 問3 ① 問4 ⑤

## 第二次世界大戦が残したもの

- 1) 第二次世界大戦の勝利に決定的役割を果たした米ソ両国が、戦後世界をリードし、ヨーロッパは世界の中心から世界の諸地域の一つに後退した。
- 2) 二つの世界大戦を防げなかった教訓に基づき、国際連合が結成された。
- 3) 各地の民衆の反ファシズム抵抗運動は、【5:                   】を打破して独立を勝ち取る方向に発展した。
- 4) 核兵器の登場は人類の生存そのものを脅かす状況を招いた。(後掲)

## 核兵器開発競争と平和運動

- 1) 人類は核軍拡競争を予想できなかったのか?

1944年8月26日 アインシュタインに次ぐ物理学の世界的権威ニールス=ボーア博士はアメリカのF. ローズヴェルト大統領に会見した。ボーア博士は次のような趣旨の話を大統領にした。

《ソ連も原爆を開発するから、このままでは一大核軍拡競争の時代を迎える。だから、今からマンハッタン計画の存在をソ連に知らせ、戦後はソ連を加えて原爆を国際管理することを提案しましょう。》

つまり、《ソ連を脅かすために作ってるんじゃないから、ソ連も作ろうなんて思わないで下さい》というメッセージをソ連に送る。そしてドイツと日本が降伏したあとは、米英にソ連を加えた国際組織で原爆を管理し第二のヒトラーが現れた時

など、やむを得ない場合にのみ、国際社会の合意を得て使用する、ということ。これが核の国際管理という発想である。ローズヴェルト大統領は「聴き上手」で、見かけは大変好意的に聞いていた。ボーア先生は感激して、「大統領は今にも受話器を取ってモスクワに電話をかけそうだった」と妻に語っている。大統領はボーア先生に監視をつけるよう命じた。

- 2) F. ローズヴェルト大統領が、核兵器の国際管理などは眼中になかった背景には、**ソ連の科学力を甘く見る悪いクセ**があった。「なあにロシア人には10年はかかるさ!」という。しかし、よく見てほしい。

アメリカの原爆完成=1945年7月16日。      **ソ連の原爆完成は【6:      年】。**      わずか4年後!  
アメリカの水爆完成=1952年。      **ソ連の水爆完成は【7:      年】。**      わずか1年後!  
アメリカの人工衛星打ち上げ成功=1958年      **ソ連は 1957年!**      なんと1年負けた!

**核弾頭の主要な運搬手段であるICBM(大陸間弾道ミサイル)の基礎技術となりうる人工衛星技術でアメリカはソ連に負けた。**これを人類初のソ連の人工衛星の名をとって「**スプートニク・ショック**」と言うことがある。アメリカは学校教育のカリキュラムまで理数系重視に変更するほどのショックを受けた。

《蛇足》理数系重視のカリキュラムは日本もすぐに追従した。著者の世代はモロにその影響を受け数学や理科の単位が多く内容は濃かった。著者は理数系科目、特に数学は好きで得意だったから幸せだったが、そうでない生徒は酷い目にあつた。アメリカはすぐに誤りに気付いて修正したが日本は随分長くそのまま、理数系の才能ある学生が育った反面、「犠牲者」の数も計り知れない。

- 3) 冷戦体制の下、【8:      】(ICBM)技術の完成で、両国は「相互確証破壊戦略」を確立。良心的学者たちが心配したように、米ソはお互いに人類を何度も滅亡させようほどの核弾頭を持って向かい合う恐怖の均衡の時代に突入した。サイロと呼ばれる縦穴に鎮座する数百機のICBMを管制するシステムやごく少数の高級軍人に何かがあれば、直ちに人類が滅亡するという状況は耐え難いと感じるのが普通であろう。このような危機的状況は一連の核軍縮条約とソ連の崩壊によって、現在ではかなり緩和されている。反面、不安定な国家が核保有国となったり、テロリストが小型の核兵器を入手する危険が増したりしている。

- 4) 米英ソ仏中などの核実験は地球環境を汚染し新たなヒバクシャを生み出した。1954年3月1日の事件は世界中の良識ある人が知っている。日本のマグロ漁船【9:      】が、南太平洋ビキニ環礁で行われた水爆実験による放射性降下物(死の灰)を甲板に5センチ降り積もるほど浴びた。クルーに急性放射能障害の症状が出始めるなか船は全速で母港焼津に向かった。この船体は、今、「夢の島」に都立第五福竜丸展示館(有楽町線「新木場」)を設け保存・公開されている。東京都とその近県に住んでいる諸君は是非見学しよう。

参考「とびうおのぼうやはびょうきです」(金の星社 絵本)

大国の核実験は、空中、水中、地中、大気圏外(宇宙)で行われ、実験場となった砂漠や海洋は汚染された。核動力の航空母艦、潜水艦も汚染源となりうる。原子力発電所も事故を起こせば同様である。

- 5) 第五福竜丸事件をきっかけに、日本の原水爆禁止運動は盛り上がり、**核兵器に反対すること、ないしは核兵器の使用を肯定しないことは、思想信条を越えて日本国民のナショナルコンセンサス**となった。このような国は世界でただひとつ、日本だけである。

1955年、広島と長崎で**原水爆禁止世界大会**が開催された。

1955年、核戦争の脅威を警告する【10:      】宣言が出された。

1957年、【11:      】会議に集まった世界の科学者が核兵器の禁止を訴えた。

かつて核兵器の廃絶は「夢」や「理想」にすぎなかったが、今や現実的課題となりつつある。

人類は核兵器とは共存できない。

## 2014 青山学院大学(抜粋・改変)

戦後の世界秩序の構想は、すでに、第二次世界大戦中から開始されていた。戦争開始後2年目の1941年には既に、アメリカ大統領ローズヴェルトとイギリス首相チャーチルの会談により、戦後秩序の大枠を構想した【A】が発表された。

その後1943年には、【B】も参加して、アジアの対日処理を決めた【C】、さらに戦争終結直前の1945年には、ソ連領土内で3大国の指導者らにより話し合われた【D】によって、連合国による戦後の国際秩序システムが、形成されていったのである。

しかしその後、戦争が終了しソ連の影響力が拡大する中、世界は次第に東西に分断されていき、冷戦(Cold War)が開始されていくことになる。とくに、戦争直後、ギリシアやトルコにおいて、予想を超えたパルチザン運動や社会主義運動の影響の拡大の過程で、アメリカの国務長官は、欧州への経済構想を発表したが、これは【E】と呼ばれ、その後の欧州におけるアメリカの影響力と、戦後の経済支援に多大な影響を与えることとなった。

ヨーロッパ東部では戦後しばらくは、人民民主主義という多党制を取っていたが、その後、一連の政治的変化を経て、ソ連とともに、共産党による【F】と、経済機構である経済相互援助会議を形成して、同盟の強化を図ることとなった。他方、西ヨーロッパでは、チェコスロヴァキアの政変後、【G】を結んで、西側の安全保障を強化することとなり、これはその後NATOのひな型となった。こうしてヨーロッパ大陸東西での対立が開始されていく。

東西ドイツでも分断が進行し、1948年6月、ドイツでは、共同管理下の都市における水・陸の連絡網が分断される事態となった。これは【H】として東西の分断を促進した。以後、西ドイツは、連邦共和国首相アデナウアーの指導の下、主権を確立し、その後、西側の一員として西ヨーロッパの機構に組み込まれ、経済成長を遂げていくこととなる。

1950年には、戦後のフランスで国会議員・外相となった【I】の指導の下、宣言が出され、翌年、欧州統合の基盤となる【J】が設立された。これはその後、ヨーロッパ経済共同体や、【K】と共に、ヨーロッパ共同体(EC)の基礎となり、欧州各国を包摂していき、冷戦終焉後は、欧州連合(EU)へと発展していくこととなる。以下割愛

問 A~Kに適語を記せ(原問では一部を除き選択肢あり)

正解 A 大西洋憲章 B 蔣介石 C カイロ宣言 D ヤルタ会談 E マーシャルプラン F コミンフォルム

G 西ヨーロッパ連合条約 H ベルリン封鎖 I ロベール=シューマン J 石炭鉄鋼共同体 K ヨーロッパ原子力共同体